



かしわ

第74号 令和6年9月30日
ときわ会長岡東支部

Contents

- 巻頭言 … 1 / ●特色ある学校づくり … 2-3 / ●教室からの提言 … 4-5 / ●年度の絆・教職大学院からこんにちは … 6 / ●地域貢献活動・サークル活動紹介 … 7 / ●東だるま会・編集後記 … 8



生徒を鍛え、信じ、任せる

～大社高校対早稲田実業の試合を見て～

副支部長 久保 英典

今年の夏の全国高等学校野球選手権大会は、試合前の予想を覆す、いわゆる「ジャイアントキリング」が度々起きるなど、白熱した試合が多い大会でした。

中でも「球史に残る名勝負」と言われたのが、大社高校と早稲田実業との試合。野球ファンのみならず、たまたまテレビで試合を見た人たちも含め、多くの人たちの心を鷲掴みにしました。特に印象に残ったのは、両監督の判断が大きく試合を動かした2つの場面です。

- ① 2対2で迎えた9回の裏、1死1・3塁とサヨナラの場面で、早稲田実業の監督がレフトを投手とサードの間に置く「超前進守備」のシフトを敷き、レフトゴロによるダブルプレーでピンチを回避した場面。
- ② 延長11回の裏、無死1・2塁の場面で、大社高校の監督が地方大会も含め一度も試合に出ていなかった選手を起用し、見事バントを決めた場面。

①に関しては、早稲田実業が練習してきたシフトだとのことでしたが、それをあの場面で選択した監督の勇気とそれを練習通り実行した選手に心打たれました。

②の選手は、「ここでバントを決める自信がある者」との監督の問いかけに「サード側に決めてきます」と手を挙げたとのこと。彼は練習通り見事サード側にバントヒットを決め、サヨナラ勝ちに貢献しました。

2人の監督に共通しているのは「信念をもって生徒を鍛え、その生徒を信じ、任せる」姿勢だと思います。試合後、頼もしく成長した生徒の姿に、両監督とも大粒の涙を流しておられました。早稲田実業の監督が、勝利した大社高校の選手一人一人に「頑張れよ」と声をかけていた姿も感動的で涙が出ました。

私が目指してきた「指導者のあるべき姿」を再確認することができた素晴らしい時間でした。